

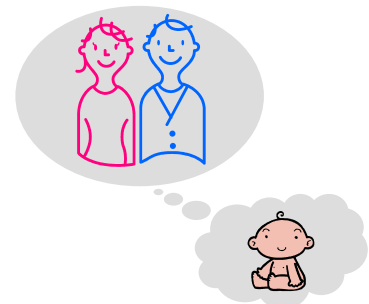
Urayasu Women's Plaza News

特集 ライフスタイルを考えよう

女性の生き方を見てみると、結婚や出産の際に、仕事を続けるか辞めるかといった選択の場面があり、どちらを選ぶかでその後の生活が変わっています。そこで、結婚や出産という出来事が、女性の生き方にどう影響を与えているのかについて考えてみましょう。

結婚と出産

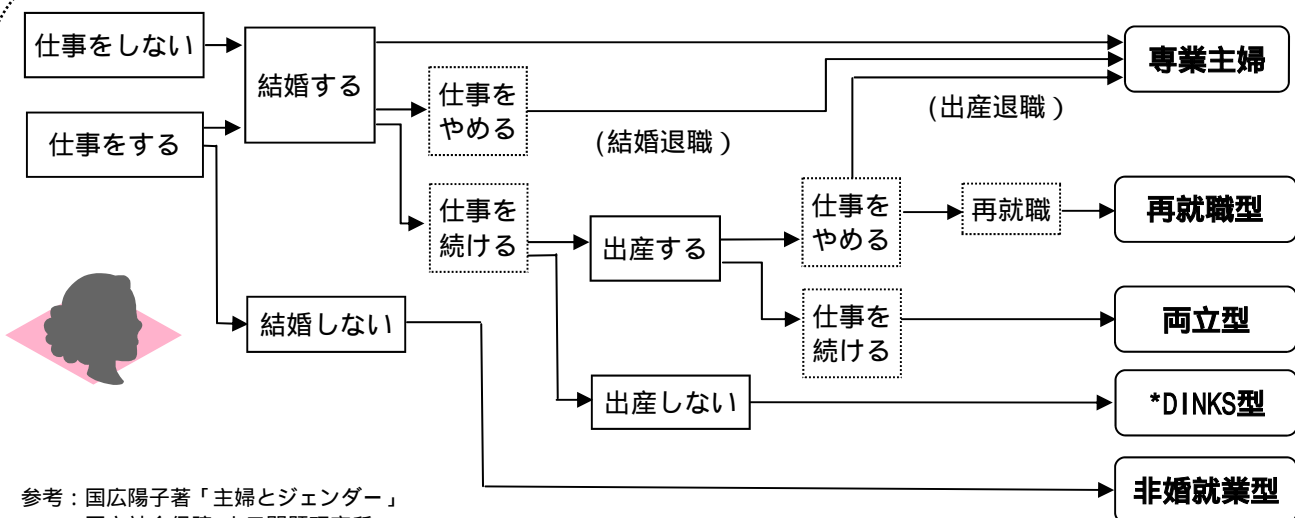
結婚をしても仕事を続ける女性が増えていますが、結婚や出産が仕事を辞める契機になっていることもまだまだ多いようです。特に、出産を機に退職するケースが多く見られます。これは、家事・育児は女性の役割という通念が依然として根強く残っているためであり、さらに、出産しても家庭外で子どもを預ける保育施設が少ないことや、仕事と子育てが両立できる働き方の仕組みができていないことなどもその原因と考えられます。



様々なライフスタイル

結婚や出産といった場面で変わっていく女性の生き方を整理してみると、結婚や出産を機に仕事を辞めて家庭に入る「専業主婦型」、出産などを機に一旦仕事を辞めたが、その後また仕事を始める「再就職型」、結婚・出産を経ても働き続ける「両立型」、結婚し共働きだが子どもがいない「DINKS型」、結婚せずに働き続ける「非婚就業型」などがあります。

女性のライフスタイル



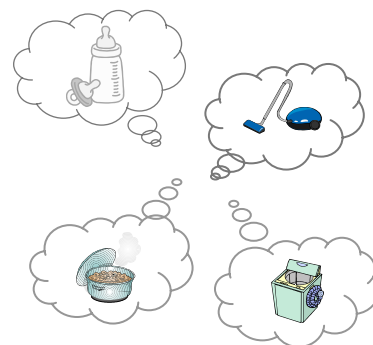
参考：国広陽子著「主婦とジェンダー」
国立社会保障・人口問題研究所
「結婚と出産に関する全国調査」

*DINKS...Double Income No Kids の略

それぞれのライフスタイル

専業主婦という生き方

日本に主婦という言葉が登場したのは明治末期ごろ。大正期までは、夫の給与だけで家計が成立するのは一握りの階層に限られており、多くは夫婦で働き家庭を支えていました。1955年から1970年頃、日本では産業構造が急激に変化してサラリーマン家庭が増え、経済は高度成長期を迎えました。経済の発展に伴う所得の増加によって、男性は外で仕事に専念することで家計を支え、女性は家庭内で家事や育児を担うという、性別役割分業が広く定着していきました。こうして、一つのライフスタイルとして、専業主婦という生き方をする女性が増えてきました。

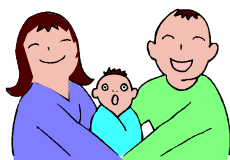
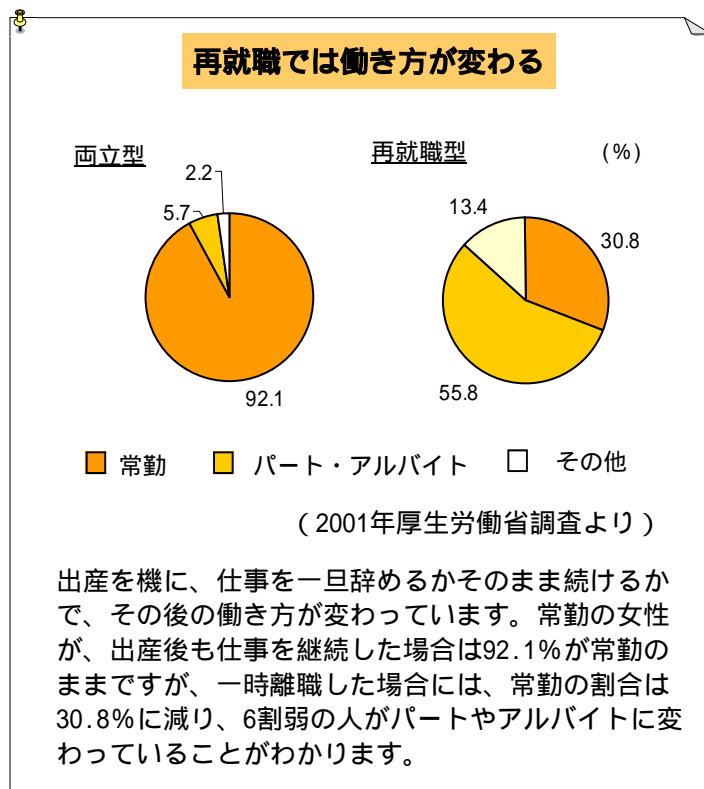


再就職型でがんばる

出産を機に一旦仕事を辞めたものの、その後子育てが落ち着いたことなどをきっかけにまた仕事を始める女性もいます。子どもの教育費などがかさむため、少しでも家計の足しにしたいという現実的な問題から、あるいは自分の生きがいを探してみたいという自己実現の手段としてなど、再就職への動機は様々ですが、正規雇用の形での再就職は難しく、パート従事者が多いのが現状です。(グラフ参照)

両立型を生きる

出産後は育児休業制度を活用したり、保育施設などを利用する、あるいは親などに助けてもらうなどして、出産しても仕事を続ける女性が増えています。また、賃金の伸び悩みやリストラの増加などの影響を受けて、男性一人の働きで家計を維持することが難しくなってきたために、女性が働き続けることを支持する男性も増えています。



再就職型・両立型でも...

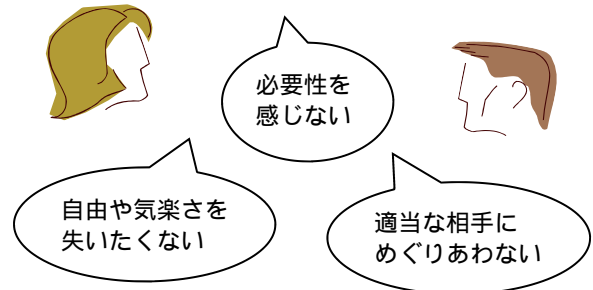
パート就労では夫や正規雇用と比べて収入格差は大きく、女性の経済的自立につながるものとは言えません。再就職の際にも正規雇用の機会が得られ、安定した労働条件や収入が確保できるようにするなど、女性の労働環境の整備が求められています。

また両立型においては、家事や子育てを女性一人が担うことが多く、女性が「仕事も家事・育児も」という「新・性別役割分業」と言われる実態が生まれています。女性が仕事と家庭を両立させるためには、家庭における家事や子育ては、夫婦で共に分かち合うという意識改革が必要です。

未婚・晩婚の女性も増えていきます

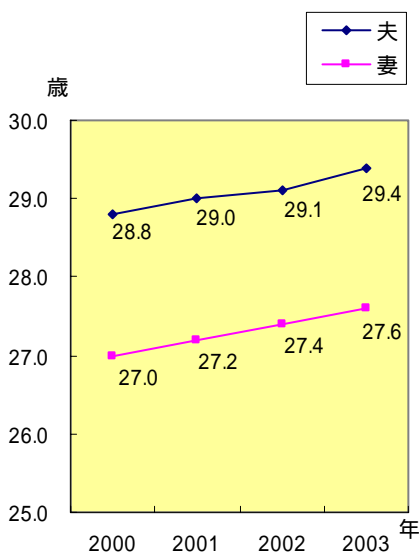
近年、様々な分野で女性の職場進出が広がると共に、男女雇用機会均等法の制定（1985年）など女性の就業を促す施策も進められています。このような動きの中、結婚や出産を機に仕事を辞めるといった、これまでの女性の多くに見られたライフスタイルが変わってきました。結婚や家族に対する考え方が多様になってきたと共に、結婚後の負担が増えることを敬遠し、仕事も家庭もという生き方を選ばない女性が増えています。社会全体としても、20代後半から30代の男女両方で、結婚していない人の割合が増加し、未婚・晩婚化が進んでいます。

25歳～34歳の独身男女に
結婚しない理由を聞いてみると...



国立社会保障・人口問題研究所
「第11回出生動向基本調査」(1997年)より

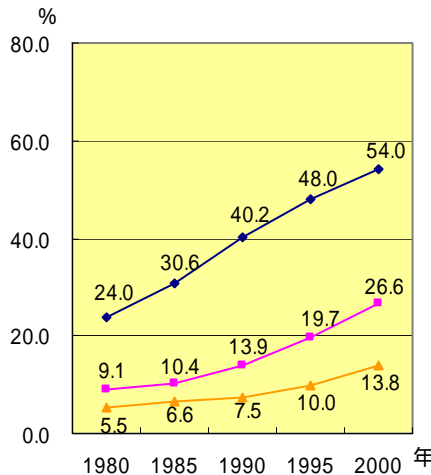
平均初婚年齢の推移



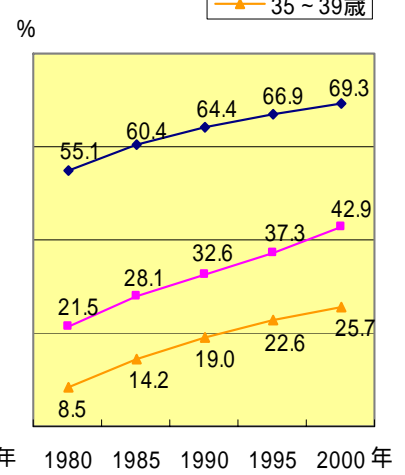
厚生労働省大臣官房統計情報部
「人口動態統計」より

年齢からみた未婚率

女性



男性



国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集より

ライフスタイルを考えよう

日本の高度経済成長期には、いわゆる専業主婦が女性のごく一般的なライフスタイルでした。「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が日本の経済を支えてきた一方で、戦後生まれの女性は生き方の選択肢を狭められてきたとも言えます。女性の社会進出が進み、社会状況が大きく変わってきている今、働く女性が増えたにもかかわらず、女性が家事労働を担う現実はそのほど変わっていません。このため、働く女性の中には、「仕事も家事・育児も」といった生き方は負担が増えるとして、結婚や出産を選ばない傾向も見受けられます。

また男性の場合には、結婚や出産が生き方の選択の契機になることは少ないけれど、多様な生き方が出来にくいとも考えられます。

それぞれが自分の意思で生き方を選択し、自分の能力を發揮していくことが、これからの社会を豊かで活力あるものにすると言えるでしょう。そのためには、社会の仕組みを変えると共に、女性も男性もそれぞれの個性や能力を認め合うことが必要です。個々の能力を最大限活かし伸びやかに生きていくために、まずは一人一人が自分の生き方を見つめ直してみましょう。



Book Guide

ブック・ガイド



『結婚の条件』 小倉千加子著

朝日新聞社

今の日本の女性たちは、「結婚」についてどう考えているのか？ 筆者が日ごろ関わる学生たちの言動や、最近世間をにぎわす著名な女性たちの生き様から、現代女性の結婚に対する本音に鋭く迫る。さらに、好みの雑誌によって女性の生き方のタイプを描き出すなど、思い切った手口で「結婚」を斬る。

筆者曰く、「女性にとって、結婚とは生活の手段であり、女性と男性が持つ資源の交換、すなわち「カオ」と「カネ」の交換である」と。少子化の一因と言われる、女性の晩婚・非婚化の原因が、この本の中から見えてくるかも…。



『男を脱ぐ!』 蔦森樹著

ジェンダーが救う
新・サラリーマン幸福論

全日出版

がんばっているのに、うまくいかない男性たち。縦型社会で緊張と不安に疲弊している中高年男性たち。会社や家庭で孤立してしまう状況から抜け出すためには、「男を脱ぐ」意識改革をすることを勧めています。上下、男女というラベルで区別した人間関係から、ラベルをはいた人間として関係を築く「修行」で自分の構造改革をしよう。男性たちに幸せであってほしいと望む筆者が、自分をリセットし、これからの生活を幸せに送るための具体的な方法を説いています。男性のみならず女性も必見の本です。

Plaza Information

プラザ・インフォメーション

ポノ・ポノ vol.4 完成



情報誌編集講座受講生の編集による情報誌ポノ・ポノ第4号が発行されました。今回の特集では、「はずしませんか？ ジェンダーの鎖」と題し、子育て期・更年期・熟年期に抱える問題について取り上げています。市民の視点から男女共同参画を考えた情報誌を、是非手に取ってご覧下さい。ポノ・ポノは、女性プラザ以外にも、市役所、各公民館、中央図書館などに置いています。

懇話会報告



第10回浦安市男女共同参画推進懇話会が、9月6日に開催されました。第4期となるこの懇話会では、「うらやす男女共同参画プラン」に基づく各事業の実施状況について問題点や改善点が討議されました。これを提言書「男女共同参画社会づくりを進めるために」としてまとめ、9月17日に市長に提出しました。詳しい内容については、浦安市ホームページをご覧ください。

女性プラザでは、女性のエンパワーメントをめざした情報の提供や講座の開催などを行なっています。現在、自分らしい生き方を見つけるためのエンパワーメント女性学講座「生き方私流～自分のキーワードを探そう～」(全6回)を9月14日より開催中です。(受付終了済)今後の講座情報については、女性プラザまでお問合せ下さい。

浦安市女性プラザ

開所：月～金 8:30 - 17:00 (土日祝休み)

住所：浦安市猫実1-1-2

浦安市文化会館2F

電話：047 351 1111 (内線1050)

FAX：047 353 1145

Mail：urayasu-womensp

@jcom.home.ne.jp

編集・発行：浦安市女性プラザ

困っていること、悩みごとがあったら・・・

「女性のための相談」(予約制)

毎月第1・2・3火曜日

第1・3・4木曜日

(10:00～16:00)

毎月第2木曜日、第4火曜日

(14:30～20:00)

* 事前に女性プラザまで電話等でご予約ください。

* 女性のための法律相談(月2回)も行なっています。

